

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
53	川崎市立子母口小学校	南谷 隆行

学校教育目標	今年度の重点目標
心ゆたかな たくましい子を育てる ・考える子 ・ねばり強い子 ・思いやりのある子 ・たくましい子	与えられる学習(活動)から自ら決める学習(活動)へ ・豊かな心を育む ・確かな学力をつける ・健やかな身体をつくる ・地域とともに歩む

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 学習指導要領の理念を踏まえた特色ある教育課程の編成・実施 (確かな学力をつける) (地域とともに歩む)	・学習指導要領に対応した年間指導計画による実践とその検証、並びに次年度に向けた指導計画の修正を図った。特に学習効果を上げるため、教科横断的に取り組む学習内容を整理し、カリキュラムマネジメントを推進した。 ・地域の皆様のご理解とご協力を得ながら各学年において、地域をフィールドとした学習の充実を図った。	・おおむね計画通りに教育課程を実施できた。次年度に向けて今年度の反省を生かしながらより学習効果を上げられるよう、指導計画の最適化を図る。 ・各学年で地域学習に取り組み、地域の皆様との関係づくりを進めることができた。児童も喜んで学習に取り組み、地域の一員としての気付きをもつことができた。今後は地域で学んだことを地域に発信していく場面・方策のより一層の充実を図る。	・今年度検討した学校生活をより豊かにする5つの視点に基づき、教育課程の編成、教育活動の実施、検証に取り組む。また、教育活動アンケートのサイクルを見直し、保護者の皆様・地域の皆様へより細やかに情報を発信できるようにする。 ・令和7年度に予定している創立60周年に向けて、地域学習のより一層の充実を図る。
2 学力・学習状況調査等の結果の分析を踏まえた確かな学力の定着 (確かな学力をつける)	・各種調査結果及びその分析に基づく本校の実態を踏まえた教員研修を実施し、学校報告書による保護者へ周知を図った。 ・児童の知的好奇心を刺激するためにインフォメーションスペースの展示を充実させ、有効活用を図った。 ・GIGAスクール構想の推進並びに自ら計画を立て、学習を進める力を育成するために、学年に応じて日常的なGIGA端末の持ち帰りを推奨し、“自学”の取り組みを進めた。	・今年度から始まった市の学習状況調査については、そのデータを生かした個別学習の充実を試みたが、十分な効果を実感するまでには至らなかった。GIGA端末を活用した”個別最適な学び”に向けたデータの活用の仕方について、教員の研究を深めるとともに、保護者の皆様への周知についても見直しを図る。 ・与えられる学習から自分で決める学習への転換を推進しているが、家庭学習の考え方も含め、保護者の皆様と目指す子どもの姿が共有できるよう、より一層丁寧に説明し、共通理解を図ることの必要性を感じている。	・インフォメーションスペースのより一層の充実を図るとともに、自分たちの学びを発信したりお互いの学習の成果を交流したりするできるスペースとしての活用を検討する。 ・校内組織の構成を工夫し、児童の実態及び学習状況調査のデータに基づく個別最適な学習の在り方(家庭学習も含む)を研究する。また、その様子を保護者の皆様にも積極的に情報提供し、今後児童が目指すべき学びの姿を共有できるようにする。
3 一人一人の児童に寄り添った児童生徒指導・支援教育 (豊かな心を育む)	・今年度新たに学習支援室を設置し、様々な教育的支援を要する児童が学校の中に居場所が作れるようにした。また、学習支援室の運営に多くの教職員が参画できるよう体制づくりを進めた。 ・「一人で抱え込まずにチームで対応」を徹底し、支援教育コーディネーターや学年主任を中心に複数の教員が協議し、指導・支援にあたる体制づくりを進めた。	・学習支援室については試行錯誤をしながらなんとか1年間運営してきた。人員・設備備品・利用の際の約束等、具体的な課題も見えてきているので、改善を図っていく。より多くの児童が必要な時に利用できるような環境づくりを進めていく。	・今年度、学習支援室の運営は支援教育コーディネーターを中心に行ってきたが、より組織的に運営するために校内組織の見直しを図り、より多くの教職員が運営に関わることができるようにする。 ・特別支援学級で学ぶ児童の保護者の皆様との連携を深め、個々の教育的ニーズに応じた支援ができるよう体制の整備を進める。

4	<p>健康安全管理並びに体力向上 (健やかな身体をつくる)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路の変更については関係機関や町会の皆様のご協力の下、臨時的な交通安全指導を行い、円滑に対応できた。</li> <li>・定期的な避難訓練の実施及び関係機関の協力のもと防災・防犯対策の充実を図った</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、学校における生活様式の見直しを図ったが、インフルエンザによる学級閉鎖が増加してしまった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通学路変更に伴う現地での交通安全指導もあり、登下校中の交通事故は防ぐことができた。しかし、放課後の交通事故については複数件の報告があったことも事実である。</li> <li>・年間を通して継続的な体力づくりの取り組みが十分ではなかった。来年度は、日常的に体力向上に取り組めるような計画を立て、実践していく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き健康安全指導の充実を図る。特に交通安全指導については、PTAおはよう運動や地域の見守りパトロールに加え、関係機関等の協力をお願いし、児童の意識の向上を図る。</li> <li>・継続的な体力づくりとして、キラキラチャレンジの取り組みを推進する。異学年交流や他校との交流を通して運動への関心を高め、体力づくりの日常化を図る。</li> </ul>
5	<p>教育環境整備</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東橋中と連携し、合築校舎及び校庭の有効活用を図った</li> <li>・PTAに協力していただき、インフォメーションスペースならびに学習支援室の環境整備に取り組むことができた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東橋中学校との連携に関しては特に問題がなかった。</li> <li>・来年度は小中ともに体育館の大規模改修工事があるため、校舎設備の使用について具体的に検討する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館工事はあるが、小中合築校舎という本校の特色を生かし、より充実した教育活動が展開できるよう東橋中との一層の連携強化を図る。</li> </ul>

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度への展望も含め、今年度の学校の取り組みについては評価できる。今後も地域と連携して教育活動の充実を図ってほしい。</li> <li>・子ども達は楽しいと思ったことには時間を忘れて熱心に取り組む。自分から進んで考え、決めることができるような力を求めていくのであれば、子ども達にとって楽しくて仕方がないような学校をつくる必要がある。そのつもりで頑張ってもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の皆様ならびに地域の皆様に支えていただきながら、今年度計画していた教育活動はおおむね実践することができた。ただ、「より良くできないか」「より教育的効果を上げられないか」と考えた時に、まだまだ改善の余地はあると考えているので、子ども達の学校生活がより豊かになるように教職員一丸となって取り組んでいく。</li> <li>・『与えられた学習(活動)から自分で決める学習(活動)へ』の転換は、子ども達が学校生活のなかで自分たちの思いや願いを実現させる経験を積み重ねていくことが重要になる。教科の学習の充実とともに、地域学習や特別活動を充実させることにも重点を置いた学校運営を進めていく。そのためにも、来年度に向けて設定した学校生活をより豊かにする5つの視点を浸透させていくことが来年度の最も重要な取組になると考えている。</li> </ul>